



森からつながる地域づくり

～ふるさと里山×学校教育～

NPO法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ
事務局 遠藤 潤

背景・目的

私たちが活動拠点としている登別市ネイチャーセンターふおれすと鉱山は、登別市鉱山地区、幌別川の上流域に位置し、民有地、国有林に囲まれています。そこで、百年後につなげる里山づくりを地域住民と一緒に、市民レベルで推進しています。身近な自然と暮らしのつながりから、学び、楽しむ場と機会を創出し、環境保全に対して行動できる人材を育成することが持続可能な地域の環境保全につながると考え、次世代へつなぐ豊かな地域づくりに貢献することを目的としています。

内容・成果

私たちは、「地域の力」で里山づくりを推進しています。その里山フィールドを活用し、環境教育を実施しています。

○ふおれすと鉱山の年間利用者数は、25,000人前後、年間プログラム数は300活動、受託プログラム（活動サポート）を含めると400を超える活動を実施しています。他に、関わるボランティアの活動は年間380活動あり、関わるボランティア数は約2,000名となります。私たちは、「ボランティアを中核に据えた組織運営」を実施しています。

○2006年に登別市が策定した「ふおれすと鉱山流里山づくり構想」に基づいて、モモンガくらぶでは、2006年より市民レベルでの里山づくりを進めています。ふおれすと鉱山周辺の7haの森（市有地）及び登別市教育委員会と後志森林管理署が協定を結んでいる「遊々の森」を中心に、里山づくりを進め、その森や川をフィールドに、環境教育プログラムを展開しています。

○2018年度は、宿泊学習、総合的な学習等で市内・市外の小・中学校、高校の皆様を44校受け入れし、うち41校の活動サポートを行いました。事前に各学校ごとに打ち合わせを行い、学習のねらいに沿った環境教育プログラムを提案し、活動サポートを実施しています。

○2009年より、引率する教諭の皆様を対象にリスクマネジメントを取り入れたフィールドでの研修会を実施しています。今年度より、宿泊学習時におけるリスクマネジメントについての事前研修会も実施し、50名の方にご参加いただきました。また、教諭の社会教育研修の受け入れも行い、里山の自然を活用した環境教育プログラムをと考えています。

里山で原体験を育む子どもたち、その里山フィールドをつくる・支える「地域の力」、このようなしくみが、持続可能な地域の環境保全につながっていると考えています。

今後の展開

今後も、行政、学校教育現場と情報交換を行い、教育と連携した環境教育プログラムを開発し、地域の魅力として発信していきたいと考えています。

